

【熊本S. J. C. D. 例会抄録】

演題: 25年以上経過インプラントの後ろ向き研究

補綴的併発症について

演者名: 添島義樹

日付 2016年10月25日

keywords

1. 後ろ向き研究
2. インプラント天然歯の連結様式
3. 長期経過症例の統計的観察

抄録

オッセオインテグレーションタイプのインプラントが臨床応用されてから、欠損部をインプラントによって支持された補綴装置によって機能回復することは予知性の高い治療法として広く認知されている。様々な術式、マテリアルの改善によって中期的には 100%に近い生存率が得られることから長期経過症例の報告が多数みられるようになり、予後の長期安定に関するエビデンスも確立されつつある。

現在、インプラントと天然歯は連結しないことがコンセンサスとされているが、インプラント臨床草創期は、多くがインプラントと天然歯は連結して用いられていた。

今回、複数診療所で行った25年以上の長期経過の治療結果をもとに、インプラント治療における補綴関連の併発症について上部構造の種類、固定様式別に評価し、天然歯と連結したインプラントの経過からの結果を報告するとともに症例を提示し考察する。諸先生方のご意見ご指導をよろしくお願いいたします。